

## 四大節

終戦前で、私が小学生だった頃、四大節には学校で式典があった。四大節とは、一月一日四方拝。二月十一日紀元節。四月二十九日天長節。十一月三日明治節の事だ。

その日の授業は休み、生徒は殆ど全員、羽織、袴。男先生は一張羅の背広にネクタイ。女先生は着物に袴。誰もが持っている一番よい着物を着てくる。

校庭の一郭に、天皇、皇后両陛下の写真を保管してある奉安殿から、校長先生が両陛下の写真を、恭しく捧げ持ち、講堂の壇上に飾る。先生や児童生徒全員整列、式が始まる。まずオルガンの音に合わせ修礼。

国歌君が代斉唱、校長先生の教育勅語朗読。一月一日は、年の初めのためしとて」と歌い出しで始まる四方拝の歌を歌い、長々と校長先生の訓話があり、オルガンに合わせて終礼、式は終了。全員校庭に整列、両陛下の御写真を又校長先生が捧げ持ち、奉安殿に収納して解散する。この行事を年四回行う。

奉安殿は一坪位の鉄筋コンクリート作り、屋根はお寺と同じ構造だ。扉は厚い鉄製で、デッキカイ鍵が掛かっている。朝登校して来ると、まず奉安殿に向かって、最敬礼してから教室に入る。現代の人々には信じられないだろう。敗戦で奉安殿は、無くなり、祝日も登校せず、休みになった。

終戦前の我が家も正直云って皆に呆れられるほど厳格な生活だった。四大節の夜は我が家でもやった。家の一番奥の部屋は十二畳の床の間と云った。此処で式を挙げる。オルガンが無いから親父が「一



道路から見た生家

二・三・ハイ」(君が代は千代に八千代に……)と父母を前に後ろに一列に六人の子供が並び、四方拝の歌を歌う。食事はその後、一人々々のお膳がある前に座り、親が「戴きます」と言ってから一斉に私達も「戴きます」と言ってから食事に向く。

お正月十日間、お彼岸中、お盆、大晦日、誕生日、等は床の間に集まって食事をする。ふだんは台所の広い板の間に座り自分のお膳で食事する。食器は自分の物を洗いお膳に伏せ、戸棚に片づける。

学校に行く前に、受け持ちの部屋や縁側を掃除してからでない叱られる。

少しでも悪さをすれば、おしりを叩かれる。着物でパンツは穿いていないから、着物をめくればスツポンポンだ。お尻は平手で叩かれは痛い。親父は絶対頭を叩かなかった。夜など私は兄弟で一番多くご飯を食べさせられず、家の外に出された。

一時間位ベソをかきながら外に居ると、母親が迎えに来る。毎度の同じパターンだ。

「謝ってやつから、これからすねえって言うんだぞ。」

母に連れられ父の前に手を付き

「これから、しないからから、勘弁して下さい」と言ってワーと泣く。幼少時代の親の躰だ。

親の呼び名も「おとさん」「おかさん」と呼び、兄弟どうしでも(さん)(ちゃん)を必ず付けて呼んだ。

兄さん、富ちゃん、泰ちゃん、欽ちゃん、末の妹を隆ちゃん、今でもそうだが、あの当時、親、兄弟に敬語を付けて呼び合う家庭は殆ど無い。

私達は小さい時から厳格に育てられた。祖父の時代も同じだった様だ。その為だったかは分らないが、私達兄弟は、肝っ玉が小さく、意志が弱い。私はとりわけ意志が弱い。生まれた時からの性格だから直しようがないが。

でもこの世に産んでくれ、育ててくれた、親に感謝しなければならぬ。